



経営者が見えていないもの！！

私の周りには素晴らしい社長が沢山いる。能力的にも人間的にも素晴らしく尊敬できる社長も沢山いる。会社の中では社長はトップとして自由裁量の幅が広く、何だってできるし、最終責任さえ取れば行動は無限にフリーダムである。しかしながら、そのような素晴らしい社長にも悩みの種はある。それは一体どんな悩みであろうか？

1. 儲かっている会社も、そうでない会社もお金の流れが漠然として見えていない！！

儲かっている、儲かっていなくても社長はいつもお金のことは気掛かりである。しかし、今どれだけのお金が入ってきて、どれだけのお金が出て行って、いくら残っているのか？現在から未来に向かってスッキリと見通せるようになっていないのである。

- ①お金の流れがはっきりと見えていなくて「赤字」・・・これは至急に現状実態が見えるようにすることと、仕組みの改革が必要である。
- ②お金の流れがはっきりと見えていなくて「黒字」・・・成長過程にある会社に多いのであるが、これもある意味黒字倒産などの危険がある。
- ③お金の流れがはっきりと見えていて「赤字」・・・赤字の原因は解明できるので、対策は打てる。
- ④お金の流れがはっきりと見えていて「黒字」・・・今は儲かっているが、これから先はどうなるのかという不安はある。

見えていないと人間は不安である。まず、見えるようにすることが大事であり、どこまで先を見通せるかが要になってくる。しかし、お金の本当の動きが見えていない会社は非常に多い。

2. 社長の想いや気持ちは幹部も社員も分かっていない！！

社長と幹部や社員の間には危機感のズレがある。立場が異なるのであるからそれはどうしようもない。絶対にそのギャップがゼロになることはない。しかしながら、そのギャップを限りなく小さくしていくことは可能である。そこに経営コンサルタントの役割の一つがあるのかも知れない。売上が低迷している会社があった。社長は駆けずり回り何とか新規の大口の受注を取ってきたが、それを聞いた技術部長は「社長、勘弁してくださいよ！！こんなに忙しいのにまだ我々に仕事をしろって言うのですか？」って。それを聞いた社長は心で泣いていた。社長は事あるごとに幹部や社員に社長の想いや価値観を話して聞かせるが、幹部や社員にはそれは届かない。届いたとしてもそれほど真剣には受け止められていない。そんな会社は非常に多い。

3. 先のわくわくする経営ビジョンが描けていない！！

私は経営コンサルタントとしてクライアント企業の中期経営計画の立案・策定などに関わりをもたせてもらうことも非常に多い。しかし、なかなか直近の2～3年のわくわくするビジョンが出てこない。このビジョン策定は社長でしかできない。また、社長以外誰も考えないし、周囲に相談しても共感も得られない。社長自身もこれから先、何を目指したら良いか分からない。そんな社長の潜在意識の中から次なるビジョンを引き出していくのもコンサルタントの役割の一つであろう。そこには言語化のスキルも求められてくるからである。

